

当院で診療を受けている患者さんへ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は通常の診療で得られる記録をまとめることによって行います。文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、この研究に関するお問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご連絡下さい。

① 研究課題名：

寛骨臼回転骨切り術における至適回転方向の有限要素法による解析

(寛骨臼(かんこつきゅう)とは、図1のように骨盤(こつばん)と大腿骨(だいたいこつ)からなる股関節(こかんせつ)の骨盤側の骨のことで、寛骨臼回転骨切り術は図2のように寛骨臼を回転する術式のことで、)

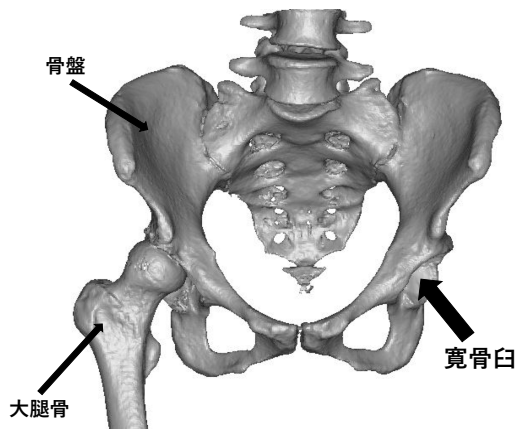


図1

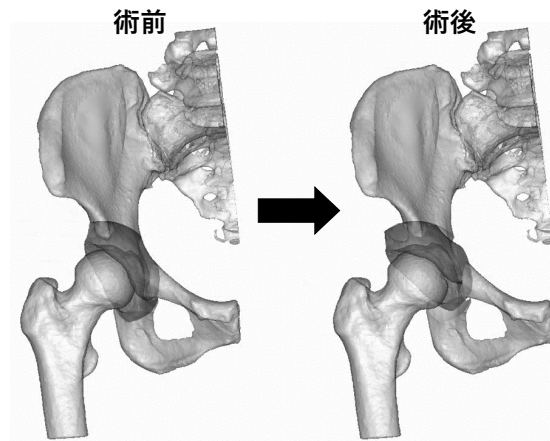


図2

② はじめに

本邦では股関節の被りが小さい発育性股関節形成不全が多く、それに続発する二次性変形性股関節症の発症も多いことが知られています。変形性股関節症に進展すると関節機能が低下し、最終的に人工股関節置換術を受けなければならないことになる場合があります。そのため、

青壮年期に症状の緩和と病期進行の抑制を目的とした寛骨臼回転骨切り術が広く行われています。寛骨臼回転骨切り術は寛骨臼を骨切りして回転させ、股関節荷重域の拡大させることにより、日常生活動作を改善する術式です。

寛骨臼回転骨切り術の成績は寛骨臼の回転方向と回転量に大きく影響を受けるため、本学ではその回転方向に工夫を加えてきました。本研究ではこの寛骨臼回転骨切り術を行ったことで、目的とする効果が得られたのか、患者さんの術前および術後のCT、レントゲン画像を使用し評価します。

③ 対象：

平成23年4月1日から平成30年7月31日までの間に、本院で寛骨臼回転骨切り術を施行された患者さん。

研究期間：2018年9月13日 ～ 2023年3月31日 予定症例数50症例

④ 研究目的の概要：

本研究の目的は、当院の寛骨臼回転骨切り術によって、股関節にかかる荷重をどれだけ減少できたのかを評価することです。

⑤ 研究方法の概要：

診療時に撮影されたレントゲン画像やCT画像を使って計測・解析を行います。また機能評価には術前と術後のアンケート結果を用います。

⑥ 個人情報保護の仕組み：

利用される情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究にカルテ情報を利用することをご了承頂けない場合は、以下にご連絡ください。なお、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。ただし、ご連絡をいただいた時点ですでに研究結果が公表されている場合は、解析結果から患者さんに関するデータを取り除くことができません。

⑦ 医学上の貢献

本研究の成果は寛骨臼回転骨切り術において今まで以上の安定性が得られ、二次性変形性股関節症への進行を今までより遅らせる一助となり、患者さんの治療と健康に貢献できます。

⑧ 問い合わせ先（平日）

札幌医科大学 学生体工学・運動器治療開発講座

住 所 : 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

電 話 : 011-611-2111 内線39200

研究責任者: 名越 智

研究分担者: 金泉 新

研究協力者: 鈴木 大輔

⑨ 問い合わせ先（夜間と休日）

札幌医科大学 整形外科学講座

住 所 : 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

電 話 : 011-611-2111 内線33330

研究責任者: 名越 智

研究分担者: 金泉 新

研究協力者: 鈴木 大輔